

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 自然言語処理の真価を引き出す言い換え生成

2. 個人研究者名

梶原 智之（愛媛大学大学院理工学研究科 助教）

3. 事後評価結果

本研究は、機械翻訳などの文生成技術は入力小さな摂動に敏感であるという問題に着目し、言い換え（パラフレーズ）技術を用いて入力文をあらかじめ前編集することで、安定して高精度な文生成を実現する技術を目指している。

本研究では、理想的な言い換えを行なった時の文生成精度の分析、全ての言い換えを効率的に列挙したラティス構造を入力としたテキスト生成手法、前編集すべき入力文の自動検出、高品質な言い換え生成技術、の 4 点について独創的な研究を行い、翻訳やスタイル変換などの文生成タスクにおいて有効性を示している。

本研究の主要な成果については国際会議および国内学会で発表しており、国内学会の発表については受賞対象となっている。トップカンファレンスへの投稿についても今後期待される。本研究のアイディアは、文生成の様々なタスクに応用できるだけでなく、文を入力とする様々な自然言語処理タスクへの展開も期待できる。